

**沖縄県の「観る」スポーツに関する研究：
ダイキンオーキッドレディスゴルフトーナメント県外観戦者の観戦動機と旅行動機に着目して**

**A study on Okinawa's "spectating" sport:
Daikin Orchid Ladies' Golf Tournament focus on
Spectator motivation and Travel motivation of nonlocal spectators**

スポーツビジネス研究領域

5017A072-6 饒平名 まなみ

研究指導教員：原田 宗彦 教授

1. 序論

近年、「スポーツ」をコンテンツとした観光産業が発展しており、全国各地でスポーツツーリズムに対する取り組みが行われている。観光庁では、スポーツツーリズムを発展させることにより、訪日外国人旅行者だけではなく、国内観光旅行における需要の喚起、旅行消費の拡大、雇用の創出に寄与し、観光産業のイノベーションとなる旅行形態になることを期待している(観光庁, 2013)。

現在、観光をリーディング産業としている沖縄県では、より観光産業を発展させるための政策の一つとして、2013年に「沖縄県スポーツ推進計画」を策定した。そして本計画において、スポーツツーリズムの推進がなされている。沖縄県は美しく豊かな海と亜熱帯地域特有の自然環境から、マリンスポーツやゴルフ等の「するスポーツ」、プロスポーツキャンプやプロゴルフトーナメントなどの「観る」スポーツイベントが開催されている。年間を通してスポーツ活動を行うことが出来る沖縄県において、「観る」スポーツはイベントの新たなマーケティング、かつスポーツツーリズムの発展において重要なデータになると考えられる。そこで本研究では、毎年3月に開催されている「ダイキンオーキッドレディスゴルフトーナメント」の県外観戦者に焦点を当て、県外観戦者の特性、観戦動機及び旅行動機を明らかにすることとした。

2. 先行研究

スポーツツーリズムにおいて、スポーツの参加又は観戦を目的としている旅行の場合をスポーツツーリズムとして定義している研究が多く散見されるが(二

宮, 2009 ; 工藤, 2002)、Hinch and Higham (2011) は、スポーツが主な旅行目的ではなく、偶然スポーツイベントに参加した場合でもスポーツツーリズムとして捉えている。観戦動機では、様々なスポーツ種目において研究が行われてきた。Trail ら (2001) はスポーツ消費者の観戦動機尺度開発に関する研究を行い、Robinson ら (2001) は Trail らの観戦動機尺度を援用し、ゴルフ観戦者の観戦動機尺度を開発した。旅行動機においては、Kozak (2001) や Nishio ら (2014) が旅行者、スポーツ旅行者に関する動機研究を行ってきた。

そして動機に影響を及ぼすとされている要因についての研究も行われている。観戦動機においては性別、年齢、観戦回数などの要因が動機に影響があるとされている (Nishio ら, 2014 ; 佐野, 2008 ; 丸, 2010)。旅行動機においては、スポーツ経験、滞在中のスポーツ実施の有無によって差異があることが明らかとなっている。(Nishio ら, 2014 ; Salazar ら, 2011)。

3. 研究目的

本研究の目的は、ダイキンオーキッドレディスゴルフトーナメント県外観戦者を対象に、①特性を明らかにすること、②旅行目的別・本大会の観戦経験別・滞在中のゴルフ実施別・年代別という4つの要因に着目して観戦動機の違いを明らかにすること③旅行目的別・滞在中のゴルフ実施別・年代別という3つの要因に着目して旅行動機の違いを明らかにすること④旅行目的別×滞在中のゴルフ実施別による観戦動機及び旅行動機の違いを明らかにすること、とする。

4. 研究方法

2018年3月1日(木)ー4日(日)に開催された第31回ダイキンオーキッドレディスゴルフトーナメントで調査を行った。対象者は県外観戦者で、調査方法は質問紙を配布し回収を行った。調査項目は、特性に関する項目、観戦動機尺度(9因子 27項目)、旅行動機尺度(4因子 14項目)を設定した。観戦動機尺度、旅行動機尺度ともに7段階尺度で回答してもらった。結果、300部の有効回答が得られた。

5. 結果・考察

目的①においては、男性が87%と多く、平均年齢は55歳であった。本大会の観戦経験では6割がリピーターであった。旅行目的ではゴルフ観戦が主目的は73.4%であった(表1)。目的②では、旅行目的別及び滞在中のゴルフ実施別において、達成、ドラマ、審美性、身体的魅力、技術に有意差がみられた(表2)。目的③では、旅行目的別及び滞在中のゴルフ実施別においてリラクゼーション因子のみ有意差がみられた(表3)。目的④では、旅行目的別×滞在中のゴルフ実施別をクロス集計し、タイプⅠ:「ゴルフ観戦が主目的×滞在中のゴルフ実施あり」、タイプⅡ:「ゴルフ観戦が副目的×滞在中のゴルフ実施あり」、タイプⅢ:「ゴルフ観戦が主目的×滞在中のゴルフ実施なし」、タイプⅣ:「ゴルフ観戦が副目的×滞在中のゴルフ実施なし」が抽出され、タイプ別の要因に関する分析を行った。結果は、観戦動機(表4)では達成因子に3要因、審美性因子に2要因、旅行動機(表5)ではリラクゼーション因子で1要因に有意差が示された。特にタイプⅢにおいては、他のタイプとの有意な関係がみられ、ゴルフ観戦者のマーケティング戦略を行う際に、重要なセグメントであることが示された。以上の結果から、旅行を伴って観戦に訪れる観戦者は、ゴルフ観戦を主な目的としており、好きな選手、注目選手を直接観戦することを楽しみにしており、旅行においても沖縄の自然や気候を求めてリフレッシュするために訪れていると考えられる。

6. 研究の限界

本研究の限界は、1つのケーススタディのみになったことである。他のプロスポーツイベントに参加する

県外観戦者の比較・検証を行い、また異なるスポーツイベントの比較を行う場合、観戦動機及び旅行動機の両方に特有の動機がみられる可能性があるため、さらなる尺度の検討が必要になると考えられる。

表 1. サンプルの特性(一部抜粋)

		%	
		男性	87.0
人口統計的特性	性別	女性	13.0
	年齢	平均年齢	55.24
観戦行動とゴルフ経験に関する特性	観戦経験	初めて	35.9
		2回以上	64.1
	滞在中のゴルフ	あり	53.7
		なし	46.3
旅行行動的特性	宿泊日数	平均宿泊数	3.75
	旅行目的	ゴルフ観戦が主目的	73.4
		ゴルフ観戦は副目的	26.6

表 2. 観戦動機の旅行目的別・滞在中のゴルフ実施別の比較

因子	ゴルフ観戦が主目的		ゴルフ観戦は副目的		t値	因子	ゴルフ実施あり		ゴルフ実施なし		t値
	M	SD	M	SD			M	SD	M	SD	
達成	5.3	1.45	4.7	1.42	2.87**	達成	4.6	1.35	5.7	1.43	6.23***
	(n=212)		(n=73)				(n=153)		(n=133)		
ドラマ	5.1	1.17	4.5	1.28	3.20**	ドラマ	4.8	1.18	5.1	1.25	2.39*
	(n=207)		(n=73)				(n=149)		(n=132)		
審美性	4.9	1.19	4.6	1.29	2.18*	身体的魅力	4.8	1.18	5.4	1.33	3.98***
	(n=206)		(n=76)				(n=145)		(n=133)		
身体的魅力	5.3	1.23	4.5	1.25	4.53***	技術	5.0	1.16	5.4	1.26	2.96**
	(n=212)		(n=65)				(n=148)		(n=136)		
技術	5.4	1.17	4.7	1.31	4.08***						
	(n=210)		(n=74)								

*p<.05, **p<.01, ***p<.001

表 3. 旅行動機の旅行目的別・滞在中のゴルフ実施別の比較

因子	ゴルフ観戦が主目的		ゴルフ観戦は副目的		t値	因子	ゴルフ実施あり		ゴルフ実施なし		t値
	M	SD	M	SD			M	SD	M	SD	
リラクゼーション	4.9	1.14	4.5	1.32	2.58**	リラクゼーション	4.6	1.14	5.0	1.23	3.05**
	(n=210)		(n=72)				(n=148)		(n=134)		

**p<.01

表 4. 観戦動機のタイプ別比較

tukey HSD法					
従属変数	(I)タイプ別	(J)タイプ別	(I-J)平均値の差	標準誤差	
達成	タイプⅢ	タイプⅠ	1.15***	.19	
		タイプⅡ	1.16***	.23	
		タイプⅣ	.92*	.32	
審美性	タイプⅢ	タイプⅠ	.50*	.17	
		タイプⅡ	.54*	.20	

*p<.05, **p<.01, ***p<.001

表 5. 旅行動機のタイプ別比較

tukey HSD法				
従属変数	(I)タイプ別	(J)タイプ別	(I-J)平均値の差	標準誤差
リラクゼーション	タイプⅢ	タイプⅡ	.70**	.20

**p<.01

(表 2〜5 は有意な項目のみ記載)